

工学部研究資料館の機械遺産認定と今後の活用

清水 久雄, 神之田 信幸, 中村 秀二, 倉田 大
白川 武敏, 平田 正昭, 廣田 将輝, 稲尾 大介
熊本大学工学部技術部 機器製作技術系

1. はじめに

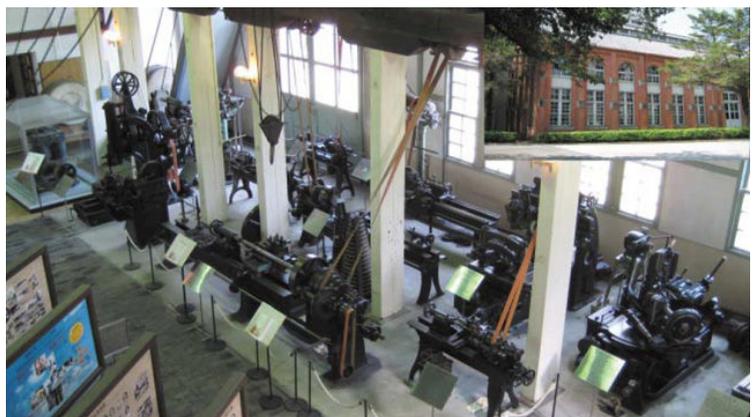
工学部研究資料館の建物と館内に展示されている工作機械 11 台は平成 6 年に国指定重要文化財の指定を受けました。本館は熊本高等工業学校の機械実験工場として明治 41 年に設置され現在に至っております。本館の西側にはボイラー室、蒸気機関室を設け、機械実験室に動力を供給し全ての工作機械を動かす構造になっておりましたが、現在は撤去され電動機による駆動を行なっております。また現存する建築物としての実用性と装飾的要素を備えた美しさがあり、数少ない近代的建物として大変貴重であります。公開時には、この建築物への入館および動く重要文化財工作機械を御覧いただけます。また、平成 19 年には機械学会より、工学部研究資料館および重要文化財工作機械に 2 台の工作機械を加えたものが機械遺産として認定されました。今回はその紹介をさせていただきます。

2. 機械遺産とは

機械遺産とは2007年6月に日本機械学会創立110周年記念事業の一環により設けられた制度であり、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、日本の機械技術発展において強い影響を与えた機械・機器・機械関連システム・施設・設計仕様書・教科書などを対象に与えられ、今後、所有などの継続が出来なくなった場合に、他機関などへの移管の仲介などを行い、認定機械の処分や散逸を防ぐものとしている。

3. 工学部研究資料館の歴史 - 機械遺産認定まで

明治 30 年(1887)に設置された第五高等学校工学部より熊本高等工業学校が明治 39 年(1906)に独立し、明治 41 年(1908)12 月熊本高等工業学校機械実験工場として竣工されました。その後、施設は熊本大学に引き継がれ、新しい実習工場である中央工場ができる昭和 45 年(1970)までの約 60 年間、実験工場として研究支援や学生指導などに用いられていました。



昭和 52 年(1977)に熊本大学工学部 80 周年記念事業のなかで、工学部研究資料館として創設され、平成 6 年建物と工作機械群 11 台が重要文化財として国指定された。平成 9 年(1997)、熊本大学工学部 100 周年記念事業の一環として、これまで稼動していた 3 台の機械以外 8 台の動態保存化を進め、平成 11 年(1999)国指定重要文化財工作機械 11 台全てが動態保存化する。

平成 19 年(2007)日本機械学会より、工学部研究資料館および館内工作機械群 13 台(重要文化財 11 台含む)が機械遺産に認定される。

4. 機械遺産の紹介

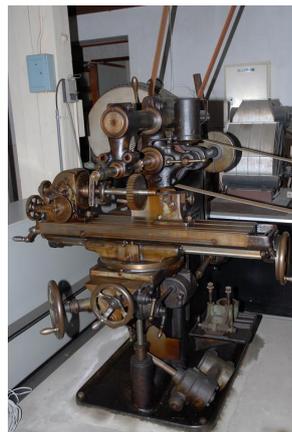
機械遺産認定の際、これまでの国指定重要文化財 11 台の工作機械に加え、新たに 2 台の工作機械(万能フライス盤・直歯傘歯車歯切り盤)が認定されました。

写真左：万能フライス盤

(ブラウン・シャープ社製 1901 年購入)

写真右：直歯傘歯車歯切り盤

(ライネッカ社製 1900 年購入)



5. 今後の工学部研究資料館の役割

工学部研究資料館の役割としては、機械遺産の認定条件にもありますように「歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えること」を使命とし、多くの学生達に工作機械の歴史および熊本大学工学部の歴史をつたえていくことも重要かと思われます。また、工学部研究資料館には国内大学をはじめとする研究施設等、および国内外より多くの来場者があります。特に 07 年度は機会遺産の認定、そして新聞やテレビなどのメディアへ取り上げられたこともあり、年間 1432 名の来場者がありました。07 年 11 月、08 年 5 月には資料館の建物(空間)を活かした音楽イベント「秋深しコンサート」「風薫るコンサート」を開催し、参加者はピアノ、バイオリン等の演奏およびそれを引き立てる研究資料館の音響に心を奪われていたようです。このように研究資料館の役目は学校教育だけではなく、今後様々な用途で社会貢献できるのではないかと思います。



6. 最後に

工学部研究資料館の工作機械群については、技術部機器製作系職員により毎月メンテナンスを行っております。これも歴史ある工作機械を多くの学生や一般の方々に実際に動く状態を感じてほしいと思うからです。また研究資料館は常時開館しているわけではありませんので、見学をご希望の方は工学部総務係までご相談ください。皆様の研究教育の一環としてご利用いただければ幸いです。